

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所
現代文B		2	70	現代文B	第一学習社
教科担当者名					
学期	月	進捗予定及び実施内容		備考	
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容 【年間授業計画】		科目現代文Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学期	4	評論『「自明性の罫」からの解放』見田 宗介 評論『手の変幻』清岡卓行	漢字・語彙の小テストを行い、漢字や語彙の力をつける。筆者の主張を適切に読み取り、その主張の根拠を文章中から指摘する。筆者の主張を読み取り、身近にあるものを多角的にとらえられるようになる。筆者の主張を知ることにより、自明性についての理解を深める。		26
	5				
	6	小説『山月記』中島 敦	漢字・語彙の小テストを行うことで漢字や語彙の力をつける。場面や人物などの設定を読み取り、全体の枠組みや展開の仕方をとらえる。ストーリーにそって登場人物の心情を読み取る。主人公の境遇と自身の生活を比べて考える。		
	7				
2 学期	9	小説『ころ』夏目 漱石	漢字・語彙の小テストを行うことで漢字や語彙の力をつける。登場人物の置かれている状況を的確に読み取る。登場人物の行動から、心情の変化やまわりの人間との関係の変化を適切に読み取る。本文の内容を時間軸に合わせ整理し、考えたことを述べる。		26
	10				
	11				
	12				
3 学期	1	評論『動的平衡』福岡伸一	漢字テストなどを通して語彙の力を広げる。本文を根拠として筆者の主張する「動的平衡」とは何かを理解する。		18
	2	評論『消費社会とは何か』國分功一郎	漢字・語彙の小テストを行い、漢字や語彙の力をつける。筆者の主張を読み取り、その主張の根拠を文章中から指摘する。「消費社会」について身近な例を挙げ、人間と社会について考えを深める。		
	3				
評価の観点	授業への取り組み、小テスト、提出物、定期考査を総合的に評価する。				

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所		
古典A		2	70	標準古典A	第一学習社		
教科担当者名							
学期	月	進捗予定及び実施内容		備考			
		単元	節、項目など	留意点など			
		指導内容 【年間授業計画】		古典Aの具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数	
1 学期	4	古文「小式部内侍が大江山の歌の事(古今著聞集)」  漢文「推敲」		1年次に学習した漢文法の復習を行いながら、さらに高度な漢文読解を行えるようにする。 訓点はもとより、漢文特有の文法などにも着目させ、白文から意味が取れるようにする。 漢文が日本古典に与えた影響とも関連付け、また漢字の熟語学習とも関連付けて、より深い国語学習の成長を目指す。			26
	5						
	6						
	7						
2 学期	9	ゆく川の流れ(方丈記)		敬語の多彩さや助動詞や助詞の学びを通して日本語の表現力の豊かさを知る。 古典の最高峰である『源氏物語』を成立および代表的な場面を詳しく学ぶことで、その魅力を知る。		26	
	10	中納言参り給ひて(枕草子)					
	11	若紫(源氏物語)					
	12	項羽、大いに怒る(鴻門之会)					
3 学期	1	剣の舞(鴻門之会) 四面楚歌		古典に表れた作者の思想を読み取ることを通して、現代の我々の生き方を考える。 古典文法・古典語への理解を深めることで、言語表現の豊かさに着目するとともに、古典に表れる古人の生の思考を読み取る。		18	
	2	姨捨(大和物語)					
	3						
評価 観点	定期テスト、授業への取り組み、提出物等を総合的に判断して評価を行う。						

科目名		単位数	時間数	教科書名	発行所	
世界史A		2単位	70	新版世界史A 新訂版	実教出版	
教科担当者名						
桑名 靖之						
学期	月	進捗予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
		指導内容 【年間授業計画】		科目「世界史A」の具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数
1 学期	4	・基礎学習 ・近世ヨーロッパ(大航海時代、宗教改革、主権国家体制)		[世界の一体化とヨーロッパ] ・ヨーロッパでのルネサンスや宗教改革などの動きや、大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流について知る。		
	5	・近代ヨーロッパ(大西洋三角貿易、植民地) ・イスラーム世界の発展		[産業革命と資本主義の確立] ・資本主義の基本的概念について知る。 ・産業革命と資本主義の確立について知る。 ・資本家と労働者という社会構図を具体的な事例を挙げながらイメージする。		
	6	・産業革命 ・アメリカ独立革命		[フランス革命とアメリカ諸国の独立] ・フランス革命とアメリカ諸国の独立について知る。 [自由主義・国民主義の進展] ・19世紀のイタリア・ドイツの統一について知る。 [アメリカ合衆国の発展] ・アメリカ合衆国の建国前後の歴史について振り返る。 ・アメリカ合衆国の西部への領土拡張と移民の流入、先住民やアフリカ系の人々に対する抑圧、南北戦争後の急速な工業化について知る。		
	7	・フランス革命				
2 学期	9	・19世紀後半のヨーロッパ(英仏独伊米)		[アジア諸国の変貌] ・18世紀後半から19世紀までのアジア諸帝国の動揺と、それに対する社会変革へのアジアの主体的な動きについて知る。		26
	10	・帝国主義の時代 ・19世紀のアメリカ合衆国(南北戦争)		・ヨーロッパ中心主義に対する別の視点を持つ。 [第二次産業革命] ・第二次産業革命による交通・通信・マスメディアの発達や、企業の巨大化、国家の役割、公教育普及のインパクトについて知る。 [大衆社会の出現] ・社会生活の変化に着目し、大衆社会の意味を理解する。		
	11	・東南アジアの植民地化 ・中華帝国の動揺(アヘン戦争、辛亥革命)		[帝国主義] ・帝国主義の基本的概念について知る。		
	12	・帝国主義の時代				
3 学期	1	・第一次世界大戦		[第一次世界大戦とロシア革命] ・第一次世界大戦が始まった原因と性格について知る。 ・大戦中にロシアで社会主義革命が起こったことを知る。		18
	2	・第二次世界大戦		[第一次世界大戦後の国際秩序] ・国際連盟やヴェルサイユ体制・ワシントン体制の概要について知る。 [第二次世界大戦] ・第二次世界大戦の被害状況や基本的な戦況などについて資料写真を用いて知る。 [冷戦のはじまり]		
	3	・まとめ				
評価 の観点	・授業への参加状況 (出席、授業態度等) ・定期考査 以上から総合的に評価す。			・提出物 プリント、夏季休暇宿題なども含む		ブ

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所	
倫理		2	70	高等学校 改訂版 倫理	第一学習社	
教科担当者名						
堀内 仁						
学期	月	進度予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
		指導内容 【年間授業計画】		科目「倫理」の具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数
1 学期	4	第1章 青年期の課題と自己形成 1. よく生きることを求めて 2. 青年期の課題 3. 自己の探求 4. 現代の青年期		・青年期とは何かを理解する ・自分について考え、自己の課題を見つける		27
	5	第2章 人間としての自覚 1. ギリシャの思想		・古代ギリシャの思想について理解する ・歴史的時代背景を含めて考察する ・先哲の思想を学び、自己の生き方を考える		
	6	第2章 人間としての自覚 1. ギリシャの思想				
	7	第2章 人間としての自覚 1. ギリシャの思想				
2 学期	9	第2章 人間としての自覚 2. キリスト教		・世界三大宗教の諸宗教か、どういった宗教かその教えを理解する ・地理的要因における宗教の誕生について理解する ・宗教に対する自己の考えを持つ		27
	10	3. イスラーム				
	11	4. 仏教				
	12	第4章 現代に生きる人間の倫理 1. 人間の尊厳				
3 学期	1	第4章 現代に生きる人間の倫理 1. 人間の尊厳		・近代思想の概要を理解する ・近代の自然観が現代に与える影響について自己の考えを持つ ・自由、人権について自分の意見を持つ ・一人の人間として、社会の一員として、自己の生き方について考える		16
	2	2. 近代の科学革命と自然観				
	3	3. 自由で平等な社会の実現 4. 人間性の回復と主体性の確立				
評価 観点	・授業態度・出席回数・提出物・授業への貢献度などの関心・意欲・態度はどうか ・自分の意見・考えを記述することで表現力がついたか ・定期考査による知識・理解があるか					

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所	
数学Ⅱ		4	140	改訂版 新編 数学Ⅱ	数研出版	
教科担当者名						
学期	月	進度予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
	指導内容 【年間授業計画】		数学Ⅱの具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数	
1 学期	4	○式と証明 3次式の展開と因数分解と二項定理、整式の除法と分数式 ○等式・不等式の証明 恒等式、等式の証明、不等式の証明 ○複素数と方程式 複素数、2次方程式、高次方程式		3次式の計算と4次以上の展開式を計算する。 整式の加減剰余の計算に重点をおく。 証明の手順をきちんと整理する。 2次方程式を完璧にマスターさせる。 因数分解の便利さを理解する。		55
	5					
	6					
	7					
2 学期	9	○図形と方程式 点と直線・円 ○三角関数 三角関数 ○指数関数 指数関数 ○対数関数 対数関数		問題演習を十分に行い、多くある公式が使いこなせるようにする。 拡張した範囲でも三角関数の値が取れるようにする 問題を通して様々な関数について1つずつ丁寧に理解させる。 対数という新しい表現に拒否反応が出ないように計算練習を十分にする。		55
	10					
	11					
	12					
3 学期	1	○微分と積分 微分係数と導関数 関数の値の変化 ○微分と積分 関数の値の変化、微分法 ○微分と積分 曲線で囲まれる図形の面積		増減表でグラフがかけることに重点をおく。 微分と積分の関係性に注意させる。 積分の計算を通して積分で面積が求められることを学ぶ。		30
	2					
	3					
評価 の観点	定期考査の得点を基本に授業態度などを含め総合的に評価する。					

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所	
数学B		2	70	改訂版 新編 数学Ⅱ	数研出版	
教科担当者名						
学期	月	進度予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
	指導内容 【年間授業計画】		具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数	
1 学期	4	第1章 平面上のベクトル ベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分		平面上のベクトルの意味や演算、成分などの基本的な概要について理解する。 ベクトルの加法・減法・実数倍について理解する。 座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表示する。		25
	5	ベクトルの内積 位置ベクトル		ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考え方を理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを確認する。		
	6	ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示		ベクトル方程式を取扱い、直線や線分、およびそれらで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。		
	7					
2 学期	9	第2章 空間ベクトル 空間の点 空間ベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積		空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解する。 平面上のベクトルの考え方を空間に拡張し、空間図形の考察に活用できるようにする。		25
	10	ベクトルの図形への応用 空間座標における図形 第3章 数列 数列と一般項 等差数列		内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考え方などが平面上の場合と同様に考察することができることを理解する。 数列の一般項の意味を理解し、初項、第n項、末項等の基本用語を理解する。		
	11	等差数列の和 等比数列 等比数列の和 和の記号 $\Sigma$		等差数列、等比数列の一般項や和を公式を用いて考察することができる。 和の記号 $\Sigma$ の意味を理解する。 自然数に関する和の公式を用いて、様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。		
	12	2学期の総復習		2学期の総復習を行う。		
3 学期	1	階差数列 いろいろな数列の和		階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。 部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解し、応用できるようにする。		20
	2	漸化式 数学的帰納法		漸化式の意味を理解する。 漸化式から一般項を導く技法を学び、等差数列、等比数列を表す漸化式から隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。 数学的帰納法を習得し、証明問題に取り組む。		
	3	3学期の総復習		3学期の総復習を行う。		
評価 の観点	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。					

科目名	単位数	時間数	教科書名	発行所	
物理基礎	2	70	改訂 新編 物理基礎	東京書籍	
教科担当者名					
小島 睦					
学期	月	進度予定及び実施内容		備考	予定時数
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容 【年間授業計画】		具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学期	4	ア 運動の表し方 (ア)物理量の測定と扱い方 (イ)運動の表し方		・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。 ・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。	26
	5	(ウ)直線運動の加速度		物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。	
	6	イ 様々な力とその働き (ア)様々な力 (イ)力のつり合い		・物体に働く力のつり合いを理解する。 ・物体に様々な力が働くことを理解する。	
	7	(ウ)運動の法則		・運動の三法則を理解する。	
2 学期	9	ウ 力学的エネルギー (ア)運動エネルギーと位置エネルギー		・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する。	26
	10	ア 熱 (ア)熱と温度 (イ)熱の利用		・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。	
	11	イ 波 (ア)波の性質		・波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する。	
	12	(イ)音と振動		・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。	
3 学期	1	ウ 電気 (ア)物質と電気抵抗		・物質によって抵抗率が異なることを理解する。	18
	2	(イ)電気の利用		・交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解する。	
	3	エ エネルギーとその利用 (ア)エネルギーとその利用		・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解する。	
評価 の観点	①定期考査 ②授業プリント ③問題集 ④授業への取り組み				以上の成績・内容を総合的に判断して評価する。

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所	
化学基礎		2	70	改訂版 新編 化学基礎	数研出版	
教科担当者名						
学期	月	進度予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
	指導内容 【年間授業計画】		化学基礎の具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数	
1 学期	4	ア 化学と人間生活とのかかわり イ 物質の探究 (ア)単体・化合物・混合物		・人間生活の中で利用されている物質の例を挙げることができる。 ・代表的な元素を元素記号を使って表すことができる。		26
	5	(イ)熱運動と物質の三態		・粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。		
	6	ア 物質の構成粒子 (ア)原子の構造 (イ)電子配置と周期表		・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。		
	7	イ 物質と化学結合 (ア)イオンとイオン結合		・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。		
2 学期	9	(ア)イオンとイオン結合 (イ)金属と金属結合		・イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 ・金属結合及び金属の性質を理解する。		26
	10	(ウ)分子と共有結合		・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 ・分子からなる物質の性質を理解する。 ・高分子化合物について、その合成反応や性質について理解する。		
	11	ア 物質質量と化学反応式 (ア)物質質量		・物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。		
	12	(イ)化学反応式		・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。		
3 学期	1	イ 化学反応 (ア)酸・塩基と中和		・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。		18
	2	(イ)酸化と還元		・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。		
	3			・酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。		
評価 の観点	①定期考査 ②授業への取り組み ③提出物(実験プリント) ④小テスト		以上の成績・内容を総合的に判断して評価する。			



学 年	科 目 名	単 位 数	時 間 数
第 2 学 年	体 育 ( 女 子 )	3単位	105時間

(○)必修科目 ( )に○をつけてください

( )必修選択科目

( )自由選択科目

期	進 度 予 定 及 び 実 施 内 容	備 考
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定</li> <li>握力 上体起こし</li> <li>長座体前屈</li> <li>反復横とび</li> <li>50m走 1500m走</li> <li>立ち幅跳び</li> <li>ハンドボール投げ</li> <li>・体育的行事練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> <li>基本技能</li> <li>パス</li> <li>サーブ</li> <li>スパイク</li> <li>ルールの理解</li> <li>ゲーム形式</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水 泳</li> <li>各種泳法の基本</li> <li>長時間泳</li> <li>タイム測定</li> <li>・ソフトボール</li> <li>キャッチボール</li> <li>バッティングの基本技</li> <li>能</li> <li>ゲーム形式練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール</li> <li>基本技能</li> <li>パス</li> <li>サーブ</li> <li>スパイク</li> <li>ルールの理解</li> <li>ゲーム形式</li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持久走</li> <li>インターバル</li> <li>トレーニング</li> <li>ペース走</li> <li>記録会 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン</li> <li>基本技能</li> <li>ルールの理解</li> <li>シングルスゲーム</li> <li>ム</li> <li>ダブルスゲーム</li> </ul>

評 価 の 観 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの予防知識を身につけられたか。</li> <li>・基礎体力を高められたか。</li> <li>・各種スポーツのルールと技能の理解と修得ができたか。</li> </ul>

学 年	科 目 名	単 位 数	時 間 数
第 2 学 年	体 育 ( 男 子 )	3 単 位	105 時 間

(○)必修科目 ( )に○をつけてください

( )必修選択科目

( )自由選択科目

期	進 度 予 定 及 び 実 施 内 容	備 考
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定</li> <li>握力 上体起こし</li> <li>長座体前屈</li> <li>反復横とび</li> <li>50m走 1500m走</li> <li>立ち幅跳び</li> <li>ハンドボール投げ</li> <li>・体育的行事練習</li> </ul>	武道 (柔道/剣道)  ・柔道 応用技  ・剣道 応用技
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水 泳</li> <li>各種泳法の基本</li> <li>長時間泳</li> <li>タイム測定</li> <li>・ソフトボール</li> <li>キャッチボール</li> <li>バッティングの基本技</li> <li>能</li> <li>ゲーム形式練習</li> <li>□</li> </ul>	・柔道 対人動作  ・剣道 対人動作
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持久走</li> <li>インターバル</li> <li>トレーニング</li> <li>ペース走</li> <li>記録会 等</li> </ul>	・柔道 試合  ・剣道 試合

評 価 の 観 点
基礎体力の充実を図ることができたか。 各種 スポーツのルール の理解と協力してゲーム などが出来る能力が身に 付いたか。

学 年	科 目 名	単 位 数	時 間 数
第 2 学 年	保 健	1 単 位	35 時 間

(○)必修科目 ( )に○をつけてください

( )必修選択科目

( )自由選択科目

期	進 度 予 定 及 び 実 施 内 容	備 考
1 学 期	生涯を通じる健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期と健康</li> <li>・性意識と性行動の選択</li> <li>・結婚生活と健康</li> <li>・妊娠出産と健康</li> <li>・家族計画と人工妊娠中絶</li> <li>・加齢と健康</li> <li>・高齢者のための社会的取り組み</li> <li>・保険制度と保健サービスの活用</li> </ul>	
2 学 期	生涯を通じる健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療制度と医療費</li> <li>・医療機関と医療サービスの活用</li> </ul> 社会生活と健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染と健康</li> <li>・水質汚濁と健康</li> <li>・土壌汚染と健康</li> <li>・健康被害の防止と環境対策</li> </ul>	
3 学 期	社会生活と健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境衛生活動の仕組みと働き</li> <li>・食品衛生活動の仕組みと働き</li> <li>・食品と環境の保健と私たち</li> <li>・働くことと健康</li> <li>・労働災害・職業病と健康</li> <li>・健康的な職業生活</li> </ul> * 学年末考査	

使用教科書について	
書名	現代高等保健体育改訂版
著作者	和唐 正勝 他
発行所	大修館書店
検定日	H28年2月17日

評 価 の 観 点
健康の成立には様々な要素があるということが理解できたか。

科目名		単位数	時間数	教科書名	発行所
音楽Ⅱ		2	70	MOUSA 2	教育芸術社
学期	月	進度予定及び実施内容		備考	
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容 【年間授業計画】		科目「音楽Ⅱ」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学期	4	○ 歌唱 混声合唱「虹」「青い鳥」他		・細かい音程や声部のバランス等に配慮させる	
	5	○ 器楽演奏 ギターかキーボードの選択		・ギター希望者は1年次の基礎を踏まえコードの種類を増やしていく。また、アルペジオ等	
	6	○ ソルフージュ(メロディー聴音)		奏法の種類を増やす。キーボードは基礎を重視して取り組ませる。	
	7	○ 音楽理論 コードの構成音について		・コード理解につなげる	
2 学期	9	○ 混声合唱			
	10	○ 合奏 アンサンブル発表		・鍵盤打楽器やベルも加えて全員で楽しく演奏させる	
	11	○ 鑑賞「アマデウス」		・モーツァルトの生涯について考える	
	12	○ ソルフージュ 聴音(メジャーコードとマイナーコード)		・キーボードで響きの違いを実感させるとともに小テストで理解を確認する。	
3 学期	1	○ 混声合唱		・充分な響きを得られるように工夫させる	
	2	○ 学年末発表(公開発表会)		・自分たちで、クラス合唱曲やアンサンブル曲、楽器編成などを考えて、クラスコンサートを企画する	
	3				
評価の観点		・授業への参加状況(出席、意欲)・実技能力の向上		・提出物・小テスト等	

科目名		単位数	時間数	教科書名	発行所	
美術Ⅱ		2単位	70	美術2	光村図書	
教科担当者名						
岸野仁志、真田 希						
学期	月	進度予定及び実施内容		備考		
		単元	節、項目など	留意点など		
		指導内容 【年間授業計画】		科目「美術Ⅱ」の具体的な指導目標 【年間授業計画】		予定時数
1 学期	4	導入 鑑賞1・「レオナルド・ダ・ビンチ」 演習1・デッサン「布と手を描く」 色画用紙に鉛筆と白チョーク		実技演習		
	5	演習2・レタリング「明朝体とゴシック体」 演習3・レタリング「絵文字をつくる」		アイデアスケッチ 作品提出		
	6	課題1・伝達のデザイン「文化祭ポスター」 鑑賞2・「イタリアルネッサンス」		自己評価		
	7					
2 学期	9	演習4・「透視図法」 1点透視と2点透視		実技演習		26
	10	課題2・鉛筆デッサン「校内風景を描く」 透視図法を使って描く 課題3・水彩画「静物を描く」(透明水彩)		アイデアスケッチ 作品提出		
	11			自己評価		
	12	鑑賞3・日本の美術「工芸の世界」				
3 学期	1	課題4・立体制作「根付けを作る」 日本の伝統工芸の表現に学ぶ。		実技演習		18
	2			アイデアスケッチ 作品提出		
	3	鑑賞4・「現代美術を見る」 演習5・「抽象表現」		自己評価		
評価 の観点	・授業への参加状況 (出席、授業態度等)		・実技および演習 各課題ごとに評価の観点を示す		・提出物 プリント、制作計画、アイデアスケッチなども含む	
		・鑑賞 以上から総合的に評価す。				

科目名		単位数	時間数	教科書名	発行所
書道Ⅱ		2	70	書Ⅱ	光村図書
学期	月	進度予定及び実施内容		備考	
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容 【年間授業計画】		科目「書道Ⅱ」の具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学期	4	漢字の書		<p>篆書の成立する時代や変遷を理解し、特徴・用筆法を取得することができる。</p> <p>手順に従い、印を完成させ、押印することができる。</p>	
	5	篆書 — 用筆法・臨書			
	6	篆刻 — 姓名印			
	7				
2 学期	9	漢字の書		<p>各書体の成立する時代や変遷を理解し、特徴・用筆法を習得することができる。</p> <p>臨書だけに止まらず、書式・紙面構成も配慮して製作することができる。</p>	
	10	隷書 草書 各書体の用筆法・臨書			
	11	まとめ — 画仙紙に臨書			
	12				
3 学期	1	仮名の書		<p>正しく読み・書きができ、書式に従って、古典の技法がスムーズに表現することができる。</p> <p>各自作成した創作ノートに従い、二年間の学習の集大成とした表現をすることができる。</p>	
	2	短冊の臨書			
	3	漢字仮名交じりの書 創作(色紙)			
評価 の観点	指導内容に準じた提出作品の評価と授業活動について総合的に判断して評価する。 5段階評価とする。				

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所
コミュニケーション英語II		4	140	WORLD TREK Communication II	桐原書店
教科担当者名					
林・山口・安田／デルコート					
学期	月	進度予定及び実施内容		備考	
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容 【年間授業計画】		科目『コミュニケーション英語II』の具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学 期	4	Lesson1 What Happens in Your Country in April? 言語材料 S+V+C、S+V+O、S+V+O+O		世界各地の風土や風習について読み、その違いや特徴を理解する。	
	5	Lesson2 Aquarium ・S+V+O+C(=現在分詞)、S+V+O+C(=動詞の原形)、S+V+O+C(=過去分詞)		水族館の展示や生物についての対話を読み、そこに込められた工夫や思いについて理解する。	
	6	Lesson3 Dear Juliet ・形式主語①(to不定詞)、否定の主語、形式主語②(that節)		「ジュリエットクラブ」の活動を通して、悩みを打ち明ける人々や、悩みに答える人々の心理を読む。	
	7	Transients in Arcadia		ホテルに滞在する女性と男性のやりとりを通して、二人の背景にある生活の様子や心情を読む。	
2 学 期	9	Lesson4 Nebuta, the Soul of Aomori ・助動詞may(推量)、must(強い推量)、seem+to不定詞、助動詞+完了形		ねぶた祭りについての説明を読み、その魅力や祭りに関わる人たちの思いを理解する。	
	10	Lesson5 Changing Things, Changing Lives ・現在完了進行形・現在完了形の受け身・過去完了進行形		劣悪な環境で働いていた子どもたちが、音楽を学ぶことで自らの夢や希望を見いだしていく過程を読む。	
	11	Lesson6 Racing toward Your Dreams ・S+V(=be動詞)+C(=thatなどで始まる節)・形式目的語①(that節)・形式目的語②(to不定詞)		カーレースの世界に飛び込み、さまざまな壁を乗り越えてきた井原慶子さんの話を読んで、彼女の経歴や信条を理解する。	
	12	The Diary of Anne Frank		アンネの日記を読み、少女の等身大の思いと、彼女たちに重くのしかかる戦争の悲惨さについて理解する。	
3 学 期	1	Lesson7 The Origins of Halloween ・関係代名詞・前置詞+関係代名詞・関係副詞・関係詞の非制限用法		ハロウィーンにまつわるシンボルについての説明を読んで、この風習の起源を探る。	
	2	Lesson8 Helping People through Robots ・分詞構文(現在分詞)・分詞構文(過去分詞)・完了形の分詞構文・付帯状況を表すwith		ロボット研究者の古田貴之さんの人生について読み、彼の夢やロボット研究にまつわる思いを理解する。	
	3	Lesson9 Snowflake Bentley ・仮定法過去・wish+仮定法過去・仮定法過去完了		雪の結晶に魅せられて以来、生涯にわたって結晶を撮影し続けたベントレーの伝記を読む。	
評価の観点	・定期考査 ・小テスト ・授業態度 ・授業への参加(出席、取り組み等) ・ノート、課題等の提出 上記の点を総合的に評価する。				

予定時数

55

55

30

科目名		単位数	年間時間数	教科書名	発行所
家庭総合		2	70	家庭総合 自立・共生・創造	東京書籍
教科担当者名					
学期	月	進度予定及び実施内容		備考	
		単元	節、項目など	留意点など	
		指導内容「家庭総合」 【年間授業計画】		科目『家庭総合』の具体的な指導目標 【年間授業計画】	
1 学期	4	第6章 食生活をつくる ①食生活の課題について考える 青年期の食生活の課題 「食べる」とは 食生活の課題 食生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の役割を認識し、現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。</li> <li>・栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって、生活習慣病や心身の不調がもたらされることを知る。</li> <li>・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。</li> <li>・日本食の基本「一汁三菜」を理解し、日本の食文化を知る。</li> <li>・日本の食生活が洋風化され、現在の「新しい日本型食事」にいたったことを理解する。</li> <li>・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。</li> <li>・食品中の成分をどのように分解し、人体の成分として利用しているか、その過程を学ぶ。</li> <li>・消費期限・賞味期限をもとに食品を正しく選ぶ力を養う。</li> <li>・食品の品質表示、栄養表示をととして内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。</li> <li>・食品添加物の用途を理解するとともに、食品に含まれている食品添加物の名称・使用目的などを調べ、購入に際しての選択法を身につける。</li> <li>・食中毒の種類を知り、細菌汚染を防ぐため、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。</li> <li>・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。</li> <li>・日本料理の盛りつけと配膳ができ、それぞれのマナーを心得て食事ができるようにする。</li> </ul>	26	
	5	②食事と栄養・食品 生涯の健康と食事 栄養と栄養素 炭水化物 脂質			
	6	たんぱく質 無機質 ビタミン			
	7	③食生活の安全と衛生 食品の選択と保存 食生活の衛生と安全 ⑤調理の基礎 調理実習(和食)			
2 学期	9	④生涯の健康を見通した食事計画 栄養バランスのよい食事 食事計画 ⑥食生活の文化と知恵 日本の食文化 世界の食文化 ⑦これからの食生活 持続可能な食生活を営む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の維持・増進、からだの成長のために必要な食事摂取基準について理解する。</li> <li>・「食品群別摂取量のめやす」の表を使いこなせるようにする。</li> <li>・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて合理的に献立が作成できるようにする。</li> <li>・食料生産や食料問題、食の安全性など課題について考える。</li> <li>・生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身につける。</li> <li>・妊娠から子どもの誕生までの母体の変化と出生前診断について取りあげ、生命の尊さへの認識を深める。</li> <li>・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。</li> <li>・子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを認識する。</li> <li>・保育人形を用いて、育児の基本技術を身につける。</li> <li>・新生児、乳児、幼児それぞれの時期の特徴について理解する。</li> <li>・家庭で起こりうる事故について知り、未然防止の大切さについて考えを深める。</li> <li>・暮らしのなかでの基本的な生活習慣の形成、遊びによる社会性の習得について理解する。</li> <li>・遊びは子どもの生活の大部分をしめており、遊びをととして子どもの心身の発達や健康の保持・増進がなされていることを理解する。</li> <li>・遊びの意義や児童文化財について考える。</li> </ul>	26	
	10	第2章 子どもと共に育つ ①命を育む 人間の愛と性 子どもの誕生			
	11	②子どもの育つ力を知る 子どもの育つ力 生まれつき持っている能力 身体の発達 心の発達			
	12	③親として共に育つ 子どもの発達と保育 子どもの生活と保育 親として育つ 遊びの発達			
3 学期	1	⑤これからの保育環境 現代の子育て環境 子どもの権利と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てには家族の協力が大切であることを知るとともに、親と子のコミュニケーションが重要であることについて理解する。</li> <li>・現代における家庭保育の特徴を知るとともに、家族間のきずなと子どもへの働きかけの大切さを知る。</li> <li>・家庭保育との比較のなかで、集団保育の意義や、現代社会における保育のあり方、特徴を理解する。</li> <li>・少子社会のもとでの子育て支援について考え、よりよい保育環境を保障するために、地域や社会が果たす役割について考える。</li> <li>・子どもの権利条約にもとづいて、子どもの人権や福祉についての理解をはかる。</li> <li>・長い人生を見通した職業設計をするために必要な雇用形態についての知識を理解している。</li> <li>・収入と支出の実態を理解する。</li> <li>・ライフステージごとの家計の負担を考慮した家計の管理を考えられる。</li> <li>・契約の定義や販売方法、多様な支払い方法について理解する。</li> <li>・実際の消費者トラブルの事例をととして、消費者トラブルへの対処方法を考える。</li> <li>・消費生活センターの存在や利用方法を理解する。</li> <li>・消費者が持つ権利や責任を理解できる。</li> <li>・日本及び世界への家計の影響を理解する。</li> <li>・将来の世界に向けた環境問題への取り組みを理解する。</li> <li>・持続可能な消費生活に向けて自分にできる環境問題への取り組みを考えられる。</li> </ul>	18	
	2	第5章 経済生活を営む ①職業生活を設計する 実際の職業設計 ②計画的に使う 収入と支出を知る 家計のマネジメント ③国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ④現代の消費社会 契約と契約トラブル 商品の販売方法 多様化する支払い方法 消費者をめぐる問題 ⑤消費者の権利と責任 ⑥これからの消費生活と環境			
	3				
評価の 観点	<p>定期考査・課題提出・出席状況・授業態度等を総合的に評価する。</p> <p>*1クラス2展開授業のため、前後半で内容が入れ替わる。</p>				